2006 年度 小委員会活動成果報告

（2007 年　2 月 15 日作成）

小委員会名	都市史小委員会	**主 査 名**：伊藤　毅 **就任年月**：2004 年　4 月
所属本委員会 **（所属運営委員会）**	建築歴史・意匠委員会	**委員長名**：吉田　鋼市 **主 査 名**：
設　置　期　間	2004 年 4 月～2008 年 3 月	
設　置　目　的 **各年度活動計画** **（箇条書き）**	【設置目的】 近年、日本はもとより、欧米ばかりかアジア、イスラーム世界など、海外での都市史研究の蓄積も顕著になり、各地で国際会議や研究会が開催され、外国との研究交流も様々な形で芽生えつつある。都市史の領域はそもそも、多くの学問領域との重なり、接点をもつものであり、建築以外の他分野との学際的交流も活発に行われるようになっている。 ① こうした時期にあって、総合的に都市史研究を進展させるために、方法論や情報の交換・蓄積を行うセンター機能を学会に設ける目的で、建築歴史・意匠委員会の小委員会として、「都市史小委員会」が１９９９年４月に誕生した。既往の都市史に関する研究を分野ごとに収集、蓄積し、研究の到達点の認識と今後の研究活動を明確にする。 ② 時代・地域別の都市史研究を横断的に繋ぐとともに、方法論を豊富化するための研究会・シンポジウムを定期的に開催する。 ③ 外国人研究者の招聘等を通じて、都市史研究における国際交流の活発化をめざす ④ 従来分散的に行われてきた各時代・地域の都市史の成果の蓄積を横断的かつ総合的にとりまとめ、公開シンポジウムの記録冊子、研究文献リスト集、出版物（たとえば都市史叢書等）によって公表する。 【各年度活動（計画）】 ・1999 年度シンポジウム『都市史研究の可能性を探る』 ・2000 年度特別講演会（外国人研究者招聘）『ニューヨークの都市住宅史』 ・2001 年度シンポジウム『植民地都市の今』シンポジウム ・2002 年度『伝統都市の転換期―中世から近世へ』 ・2003 年度シンポジウム『近代都市への転換―近世から近代へ』 ・2004 年度『伝統都市の現在－近代から現代へ』 ・2005 年度『歴史都市の古代と中世』 （なお以上において、毎回、レジュメを作成し参加者に配布して来たが、2002 年度シンポジウムでは、併せて 1999 年度から 2002 年度までの活動記録を冊子化した） ・都市史小委員会の１クール（4 年間）の総括として、2003 年度建築学会大会において、パネルディスカッション『日本の都市の特質』を開催、発表内容に関わる梗概集を作成 ・2006 年度はワーキング・グループ（委員の推薦にもとづく博士課程などの若手研究者 10 名が中心／以下 WG）を発足し、定期的な勉強会を実施・継続（2006 年 12 月 11 日現在、計 5 回） ・来る 2007 年 3 月 2 日には新テーマ（「建築と都市」）にもとづくシンポジウムを開催予定	
委員構成 **（委員名（所属））**	**委員公募の有無**： 泉田英雄（豊橋技術科学大学），伊藤毅（東京大学），伊藤裕久（東京理科大学），川本重雄（京都女子大学），越沢明（北海道大学），陣内秀信（法政大学），高橋康夫（京都大学），高村雅彦（法政大学），玉井哲雄（国立歴史民俗博物館），中川理（京都工芸繊維大学），野口昌夫（東京芸術大学），初田亨（工学院大学），松本裕（大阪産業大学）	
設置 WG **（WG 名：目的）**	都市史小委員会ＷＧ：若手研究者の育成と都市史研究の一層の発展を目指す／WG を定期的に開催することをつうじ、そこでの論点・成果をシンポジウムなどに反映させる等。	

2006 年度予算	円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項　　目	自己評価
委員会開催数	8 回（年度内計画を含む／うち WG 6 回）
刊行物 （シンポジウム資料等は除く）	1．（書名）
講習会	1．（名称）　参加者数　　名
催し物 （シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等）	1．（名称）「都市と建築―「内と外」」（2007 年 3 月 2 日に開催予定） 参加者数　　名 （資料名） 2．（名称）　参加者数　　名 （資料名）
大会研究集会	1．（名称）　参加者数　　名 （資料名）
対外的意見表明・パブリックコメント等	1．
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	1． 2． 3．
委員会活動の問題点・課題	1． 2． 3．

＊小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。